

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



話す力を高める支援



1 コミュニケーション・スキルのレベル

- (1) 泣いたり、叫んだりの要求
- (2) ジェスチャー（指さし・バイバイ・クレーン現象・人を連れて行く直接行動）
- (3) 物を使って意思表示（コップを示してジュースがほしい）
- (4) 絵カードや写真を使う
- (5) 文字
- (6) サイン言語（より実物に近い形のサイン→マカトン法など）
- (7) 音声言語



2 乳幼児の言葉の発達を促す支援

- 2歳～3歳児は1日に7～8語覚える（2歳前後は言葉の爆発期）
- 理解が表現よりも発達が先行する（理解が表現の約10倍も先行）

- (1) 子どもの視線の先にある物について話す（共同注視力を高める）
 - ・「あっ！」と声をかけ、子どもの注意を引き付けながら指を指して、「○○」と言い、子どもに復唱させる。
- (2) 子どもの行動について語りかける（実況中継する）
 - ・子どもが転んだとき、「痛かったね。大丈夫 痛い痛い飛んでいけー」の言葉かけすることで、子どもはぼんやりとした身体感覚が「痛い」という言葉に結び付く。
- (3) 子どものレベルよりも「少しだけ上のレベルのモデル」を示す（拡張模倣）
 - ・子ども：「くるま」「くる马来た」→大人：「くる马来た」「白いくる马来た」

3 自発的な言葉を発するための支援（話す前に理解しているかを確認する）

- (1) コミュニケーションを楽しむことが大切（話し方よりも伝えたい気持ちを優先！）
 - ・思わず話したくなるような雰囲気と聞く態勢をつくる。
- (2) 大人が正しいモデルとなる（子どもは聞こえたようにまねをする）
 - ・「もう一度言ってごらん」「ゆっくり話してごらん」と間違いを指摘することが逆効果になることもある。（何気ない一言が心の問題に発展する）
- (3) ルーティン（パターン化した生活場面）を活用する
 - ・「おはよう、いただきます」等、繰り返し言いながら伝わっていることを実感させる。
- (4) 自己選択・自己決定できることが重要となる
 - ・二者択一（○○それとも△△）→3つの選択肢→複数の選択肢→自分で決める。

4 育てたいコミュニケーションスキル

- (1) 要求「ちょうだい、取って」→コミュニケーションのモチベーションがUPする。
- (2) 拒否「いや、やめて」→拒否を伝えられなくて苦しんでいる人が多い。
- (3) 注目「これ見て、ねえ先生」→注目が獲得できると不適切な行動が減る。
- (4) 援助「助けて、教えて」→ヘルプが出せないと大人になってからも困る。
- (5) 感謝・謝罪・許可「ありがとう・ごめんなさい・いいよ」→よい関係を維持できる。
- (6) 報告「できました、終わりました」→実行機能の弱さをカバーできる。